

「国際貢献の条例」県民は誇りに

昨年末に起きたスマトラ沖地震をテーマに災害時の国際救援活動のあり方を考える「国際救援シンポジウム」岡山から世界へ」が12日、岡山市奉還町2丁目の岡山国際交流センターで開かれた。基調講演したスリランカのカルナティラカ・アム又ガマ駐日特命全權大使は「津波被害後は、それ以前の10倍になる約6千のNGOが支援活動に参加しており、日本の団体が大部分を占めている」と感謝の意を表明。県の「国際貢献活動の推進に関する条例」に触れ、「県民はこの条例が

各国AMDA 救援活動報告

あることを誇りに思うべきだ」と話した。

この後、スリランカ、インド、インドネシアの3カ国での救援活動に携わった各国のAMDAのメンバーが活動状況を報告した。

スリランカ大使ら講演 岡山でシンポ

スリランカで感染病予防や児童のメンタルケアを担当したニュージーラ



カルナティラカ・アム又ガマ駐日特命全權大使

講演するスリランカのアム又ガマ駐日特命全權大使。岡山奉還町2丁目で

は、子供に優先して伝えることが有効だと指摘。カナダのウィリアム・グロット医師は子供の心的外傷ストレスが深刻だと話し、亡くなった子供をしのぶための公園を造った事例を紹介した。